

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200852		
法人名	株式会社ライフサポート		
事業所名	ライフサポート鎌田 (2ユニット共通)		
所在地	静岡市駿河区鎌田121-1		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 27 日	評価結果市町村受理日	令和5年 3月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和5年 2月 21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

株式会社ライフサポート全体の特徴として、静岡の市街地、住宅地に施設を建てています。その目的として、入居者家族が通いやすく、気軽に立ち寄れる施設づくりを目指しています。馴染みのある街並みの中にある環境整備の中で、緑を促進し、安らぎのある風景の中、ゆったりと生活できるよう援助させていただきます

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは古民家を模した外観で、居室も畳のある和室があるなど家庭に近づけた落ち着いた雰囲気を目指してデザインされている。さらに中庭があることで共用部は採光に配慮され、トイレ付きの居室や基準以上のトイレを配置するなど過ごしやすい建物となっている。現在コロナ禍や職員不足により外出や地域交流など制限されている状態であるが、状況を確認しながら改善を行う予定である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、職員室への理念の張り出しや新人研修で啓発を行っている	「ずっと、あなただけ、ずっと、快適な毎日を安心と安らぎを創る」を法人及びホームの理念としている。月1回開催される職員会議や定期的に行われる研修において理念に沿った対応がなされているかその都度検討されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により外部の接触はほぼなし	コロナ禍前は地域の祭りの際、ホームが神輿の中継点に利用されるなど地域の行事に溶け込んでいたが、現在は行事自体が中止となり交流は途絶えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により地域貢献できる活動は行えなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議が実施できていない。書面での報告の為、サービス向上には繋がっていない	コロナ禍以前は開催のたびに町内会長や地域包括支援センターに加えて7～8名の家族の参加があったが、現在は書面開催となっている。事故や行事の報告が主となり資料及び議事録を送付している。	書面開催であっても委員の意見を聞くためアンケートの実施などにより双方向の会議となるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上で困った事や分からない事は随時相談しており良好な関係はできている	市担当者や直接会う機会は少ないが、質問や相談などを気軽にすることができる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関するマニュアルを作成し、職員の拘束に関する知識の向上に努め、拘束適正委員会の開催や年間研修で実施している	施設長、介護支援専門員、相談員、職員をメンバーとする身体拘束適正化委員会と研修をそれぞれ年2回開催している。研修では精神安定剤を服用している利用者もあることから、ドラッグロックの研修も行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待についての理解、虐待防止の方法を定期的に話し合い共通理念としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の案内は行っているが、事業所では実施できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の読み上げだけでは理解が難しい為、契約書とは別に書類を作成している。署名は内容を理解した事を確認した上で実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響により面会の機会は減ったが、入居者様の変化や運営内容の変更など随時報告しコミュニケーションは取れている。	利用者の状態変化や事故など些細なことでも家族へ報告を行う。随時聞き取りを行い気軽に話ができる関係となっているが、運営に関する意見は現在見られないと聞き取る。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で実施。個別でも意見を確認している	職員が施設長に直接意見を言つ、また施設長から個別に声をかけるなどの取り組みを行う。本年度はアンケートをとり温かい食事の提供法や夜勤業務の見直しなどが意見として上がっており、これから検討を行う段階である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議にて業務マニュアルの確認や変更を随時行い、負担の軽減を実施している。給与に関しては経営状況もあり簡単には変更できないが、行政の補助金を活用し改善している。年2回の賞与では人事考課を行い、努力した職員へ還元できる仕組みになっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、職員会議等で実施している。外部の研修も案内を行い、実施もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で以前実施していた地域事業所との意見交換会が行えていない。職員不足もあり勉強会への参加が難しい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員からの声掛けを多くしたり、自宅で行っていた生活リズムを出来るだけ継続できるよう心掛けている。その人の性格にあった入居者様と同席にするなど、施設に慣れる配慮を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族へ困っていた事や心配事を確認している。在宅時に介護が大変だった家族へは些細な事での連絡は避けたり、買い物など施設で対応できる事は行い、家族へ心労が掛からないよう配慮している。面会を望む家族へは臨機応変に対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅で使用していた介護器具を施設でも利用できるよう福祉用具業者と契約している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶の時間やレクリエーションの時間などに会話をしたり、お手伝いができる方とは一緒に作業をして関係を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防に基づいた形での面会やオンライン面会を実施している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出ができていない。友人の面会希望があった際は感染予防に基づいた形での面会やオンライン面会を実施している	以前は面会時間に制限なく受入れを行い、関係継続に心をくわいていたが、コロナ禍の現在は窓越しやオンラインでの面会のみとなっている。今後は国の行う類型変更後に新たな対応を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格が合う入居者様とテーブルを同席にしている。物静か方には職員が間に入りコミュニケーションを取れるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族との信頼関係を入居中は特に重視している。お看取りの際には家族へ寄り添い、転居の時も気持ちの良い退去を心掛けている。以前入居していた方の連れ添いの入居相談や家族から友人を紹介されたケースもあった		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に合ったケアができるように職員で話し合ったり、本人からの訴えを傾聴して思いや意向の把握に努めている	利用者どゆづくり話を行う、意思表示が困難な利用者には行動や表情から意向を汲み取っている。各職員が収集した情報は申し送りノートやケース記録に記入または朝と夕方に実施される申し送りにて口頭で共有される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人面談の際に生活リズム、趣味、性格等の情報を把握。介護サービスを利用していた場合は担当CMやサービス事業者から情報収集している。入居後も本人とコミュニケーションを取りながら住みやすい環境を提供できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りをを行い、職員間で情報を共有している。本人のできる事、やりたい事を確認した後は職員会議で話し合いをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当とCMを中心に関係者と話し合い介護計画を作成している。実施後はモニタリングし本人の意向や思いに沿っているか確認し随時見直しを行っている	各利用者に担当職員が決まり、さまざまな情報を集約し、介護支援専門員と協働して介護計画を作成する。その後家族の同意を得たのちに、所定のファイルに綴られ職員間で共有される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気づきや変化を随時記録している。早急に対応が必要な事案は申し送りノートへ記入し情報共有している。介護計画の見直しはケース記録を活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設入居している方が使えるサービスの把握は不十分と感じる。ニーズが発生した際は関係機関などから情報収集し随時検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域活動に参加できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関のメリットを説明し、家族負担の軽減を提案している。既存のかかりつけ医に強い思いがある場合は強要はせず継続している。協力医の場合は随時情報共有し迅速に対応できている。既存のかかりつけ医の方で本人の状態に変化があった場合は随時協力医への変更を提案している	現在全員の利用者が訪問診療を行う協力医を主治医としている。他の専門医への受診は家族の付き添いを基本としているが、情報連携の必要性などその状態に応じて職員が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を実施。入居者様の状態を専用ノートに記入し連携を取っている。訪問時はコミュニケーションを取り良好な関係が築けるよう心掛けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報提供依頼があった場合は迅速に対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事量の低下や活気の低下等、小さな変化から家族へ報告し入居者様の状況を早い段階で共有している。看取り期の状態になった際は協力医と施設で話し合いを行い確認を取っている。看取り対応になった場合は施設の看取り指針に則り実施している	ホームで看取りを行う方針であり、今年度4件の事例がある。提携業者よりリクライニング車椅子など、体調に合わせた適切な福祉用具の提供がある。24時間対応の協力医のほか週1回訪問する訪問看護と協力しながら希望する看取りを行う体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	専門的な研修や訓練は実施できていないが、急変時の対応マニュアルに従い、協力医と連携を取って対処している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	鎌田は水害のリスクが高い為、入居者様を2階へ避難させる訓練や必要物品の保管場所の変更などの対応をしている。地域の連携はコロナの影響で実施できていない	火災と水害を想定に通報から避難まで一連の流れを行う総合訓練と、消火器の使用や移動法を行う部分訓練の2種類に分かれ、それぞれ年1回ずつ訓練を行う。食糧や水、発電機などの備蓄があり、発電機の使用も訓練で行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーを損なわない対応を全職員心掛けています	居室に入居する際はフックをする、職員間で申し送りを行う際は、利用者名を使わず部屋番号を使い他者に分からないようにするなど、当たり前前を当たり前前の実践を行う。年1回の接遇研修のほか、職員同士で注意しあうこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての事に対し強要しないよう心掛けている。本人の希望などは施設で対応できる範囲で実施している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の対応を重視し、個々の希望をくみ取りながら共同生活を送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類は本人に確認しながら準備している。意思表示ができない方にはいつも同じ服装にならないよう配慮している。整髪や髭剃りは物品の準備や声掛けを実施。上手にできない部分は職員が支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は施設で調理していた為、味のばらつきやメニューのマンネリがあったが、湯煎で温めるタイプの食事に変更した事で利用者様は満足している。食器洗いをしたいと希望のある利用者様には手伝ってもらっている	湯煎で温める食材は、調査時の3ヶ月ほど前から昼食と夕食に導入し開始している。温かい状態で利用者に提供できる工夫を模索中である。利用者の状態に合わせて刻み食やミキサー食の対応がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士の考えたメニューになっている為、必要な栄養は摂取できている。水分はお茶ばかりでは飽きてしまう為、食事以外の水分はコーヒーや紅茶を提供している。摂取状況が悪い場合は主治医へ相談し高栄養食品やイオンゼリーを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。自力で行える方は物品の準備を行い声掛け。それ以外の方は職員が対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が困難な方でもできる限りトイレでの排泄介助を行っている	排泄間隔のチェックを行い、適時の声かけを目指している。立位が大変な利用者には職員が二人対応で行う。トイレは居室と居室の間に設置されホーム全体で8箇所ある。さらにトイレ付きの居室が4室用意されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指導のもと自力排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は固定しているが、その日の本人の体調や気分をくみ取り、曜日の変更など臨機応変に行っている	入浴は月曜日以外の曜日で実施を行う。1日で2～3名が入浴し、利用者は週2回ずつ行う。医療的な制限がない限り利用者が納得するまで湯船に浸かることで満足感のある入浴を目指している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝準備は行うが、就寝介助は本人の意思を確認してから行っている。寝つきが悪い場合は主治医へ相談している。昼夜逆転がある方には日中寝てしまわないよう活動やコミュニケーションを取りながら日中の覚醒を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつでも確認できるようになっている。処方に変更があった場合は申し送りノートへ記載し情報共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯作業や食器洗いなど入居者様と一緒に作業できる事を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり外出頻度は減っているが、天気のいい日にドライブを数回実施している	コロナ禍前は弁当を持参し花見や散歩を行うのみとなっている。ホーム周辺の散歩など日常的な外出は職員が不足している現在は行われていない。	日常的に行う散歩は、ストレスの解消や筋力の維持向上などさまざまな効果が考えられる。職員の不足が解消された後に、再開されることを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響で店舗への買い物へは行けていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキの投函の手伝い、電話を希望する方には施設の電話で話す機会を設けています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各行事、季節に沿った装飾などを行い季節の変化を感じられるよう対応しています	ホームは中庭があることで採光に配慮されている。普段利用者が過ごす食堂は、雪だるまなど季節ごとに利用者と職員が共同で制作した飾りを行い、季節感を演出する。また人間関係に配慮し座る位置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席を固定し自分の場所作りをしている。同席の方が気が合う入居者様になるよう配慮している。通路の数カ所にソファや椅子を配置して一人になれる空間も作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や寝具の持ち込みを許可している。洋間や和室を選べる事で自宅に近い環境を作っています	居室は8畳ほどの広さがあり、洋室と畳のある和室がそれぞれ用意され、一部トイレ付きの居室もある。居室への持ち込みは自由であり、使い慣れたタンスの持ち込みがある。シーツや掃除は週1回実施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長い距離が歩けない方には食堂から近い居室を用意し手引き歩行で移動している。長時間の車椅子座位が困難な方にはリクライニング式車椅子を提案し、フロアで過ごせる時間を確保している		